

## 建設候補地の決定経緯

中頓別中学校の老朽化に伴う改築が喫緊の課題となっている。中学校校舎の整備にあたり、中学校校舎建設用地として現中頓別小学校および中頓別中学校の敷地を候補とし、想定建設候補地比較表（表 12）をもとに検討した。その結果、A 案（現中頓別小学校を改修し、中頓別小学校の校地に中学校部門を増築する）が最適と判断した。主な理由は次の 3 点である。

1. 施設一体型の義務教育学校が実現できること。
2. こども園との距離が近く、交流や連携がしやすいこと。
3. 町民センターなど既存の建物を改修して、図書館など学校に併設したコミュニティ施設を整備できること。

表 想定建設候補地比較表

	新しい中学校校舎の候補地	
	A 案：小学校の敷地	B 案：現在の中学校の敷地
場所		
良い点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校とこども園や小学校の距離が近く、交流や連携がしやすい。</li> <li>・町民センターなど既存の建物を改修して図書館など学校に併設したコミュニティ施設を整備できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゆとりある敷地に中学校校舎を新築することができる。</li> <li>・小学校や町民センターなど他の施設が近くはないので、工事をスムーズに進めやすい。</li> </ul>
検討事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・兵安川の浸水被害がなく、子どもたちの安全な学びの場を確保すること。</li> <li>・移転した既存の中学校校舎の活用。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こども園や小学校との交流や連携をどのように図るか。</li> <li>・図書館などコミュニティ施設はどこに整備するか。</li> </ul>
解決方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1000 年に 1 度の確率で校庭が 15cm 程度水に浸るリスクがある。万が一に備え、2 階への避難経路をつくる。また、何日も記録的な豪雨が続く時などは事前に学校を休校にする。</li> <li>・既存の中学校校舎は高台にあるため、避難所として活用することも検討。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインも活用し、交流や連携を図るよう努める。</li> <li>・コミュニティ施設は中学校校舎とは別に市街地に整備。</li> </ul>